

委員会行政視察実施報告書

(視察箇所ごとに作成、行数は任意で追加)

委員会名	文教厚生常任委員会
参加委員 ◎委員長、○副委員長	◎上野 利一郎 ○菊地とも子 矢吹 哲哉 山口 文章 蛭川 靖弘 長澤 勝幸 佐原 正秀

1 本市の課題と視察の目的

子供の貧困、不登校、ひきこもり等、様々な問題に悩んでいる子供たちに居場所、食事、学習支援等を提供している子どもの居場所「れんが」の取組を視察し、本市の子供たちの抱える現状を把握し、今後の本市施策の参考とするため視察等を実施した。

2 実施概要

実施日時	視察先	市内 子どもの居場所「れんが」
令和元年 10 月 11 日（金） 10 時 05 分～11 時 32 分	担当部局	—
視察項目	子どもの居場所「れんが」の取組について	
報告内容	<p>1 設立（開館）の経緯</p> <p>熊谷氏がスクールソーシャルワーカーとして、本市の学校の子供たちと向き合ってきた中で、経済的な貧困、人間関係、学習支援といった面において子供たちの環境の脆弱さを感じ、何かできることはないのかということで、平成 28 年 9 月に子ども食堂を開所した。</p> <p>平成 29 年に市から県が実施する子育て支援学習支援事業補助金の活用の打診があり、子ども食堂のほかさまざまな支援を拡充する形で、平成 30 年 4 月に「れんが」を設立、6 月に開所した。</p> <p>2 事業の目的</p> <p>子供の貧困、虐待、いじめ、自死、不登校、ひきこもり等の様々な問題を抱える子供たちに居場所、食事等を提供し、子供に寄り添いながら問題解決を一緒に考え、子供たちが自分らしく活き活きと暮らせる地域づくりを目指す。</p> <p>3 事業の内容</p> <p>(1) 子供が安心して過ごせる居場所の提供 (2) 子ども食堂による食事の提供 (3) 基本的な生活習慣の習得支援及び生活指導 (4) 学習習慣の定着等の学習支援 (5) 相談業務など (6) スタッフ研修会の開催等</p> <p>4 事業実施の日時</p> <p>設立当初は、基本的に金曜日、土曜日の週 2 日での開所であったが、不登校の子供たちの学習支援を充実させるため平成 31 年 4 月から水曜日を追加し、週 3 日で開所している。</p>	

水曜日／午後 1 時～午後 5 時
金曜日／午前 10 時～午後 6 時（冬期間：午後 5 時）
土曜日／午前 10 時～午後 5 時
※長期休みの時は、他の曜日も開所

5 利用件数（平成 30 年度実績）※平成 30 年 6 月（開所）からの実績

- (1) 施設開所日数 100 日
- (2) 参加児童実数 63 人
- (3) 延べ人数 539 人（保護者等を含めると 660 人）

6 現状の課題 ※スタッフの方のご意見も記載しております。

(1) 対象者以外の利用が課題

この施設の利用できる対象者は、特別な子供ということでの印象を持たれてしまうことから誰でも利用できるということで開所したが、結果的に本来の目的（学習支援・生活支援・ひとり親家庭・生活困窮家庭）ではない子供たちが遊び場として利用するような状況になっていることから、今後は対象者を絞った上での利用形態に変更する予定。

(2) 対象者の掘り起こしが課題

完全な不登校となっているような児童生徒や本来もっと支援を必要としている家庭が存在する中で、どのような形でこの施設へ足を運んでいただけるかが課題となっている。

(3) 継続性の課題

本来、不登校や貧困が地域からなくなり、このような場所がなくなることが理想的であると考えますが、そのような子供たちが存在する現状においては、継続していくための運営資金の確保が課題。

7 今後の展望 ※スタッフの方のご意見も記載しております。

- (1) れんがの存在を一人でも多くの方々に知っていただき、居心地のよい場所を提供するとともに、子どもたちが抱える様々な問題を子どもたちや親御さんたちと一緒に考え、寄り添うことにより、さまざまな支援を充実させていきたい。
- (2) 子供たちにとって、親や家庭の存在は非常に大きいことから、子供を受け入れる体制を充実させると共に、子供たちの親を支える体制についても充実していきたい。
- (3) 利便性の観点から通えない子どももいると考えることから、れんがのような場所を各地域に増やすことができれば理想的である。

考 察
(まとめ)

本市における子供の貧困、不登校、ひきこもり等、悩みを抱える子どもたちの置かれた現状・環境を知る上で、非常に参考となるものであった。

子育て環境（経済的な貧困、人間関係、学習など）の脆弱さがその要因となっており、子供たちの居場所づくり、そして、その子供たちを育てる親御さんへの支援の在り方について、関係団体や市民の方々との意見交換等により、知見や議論を深め、先進地等の事例等を調査・分析しながら市への提言に繋げてまいりたい。

